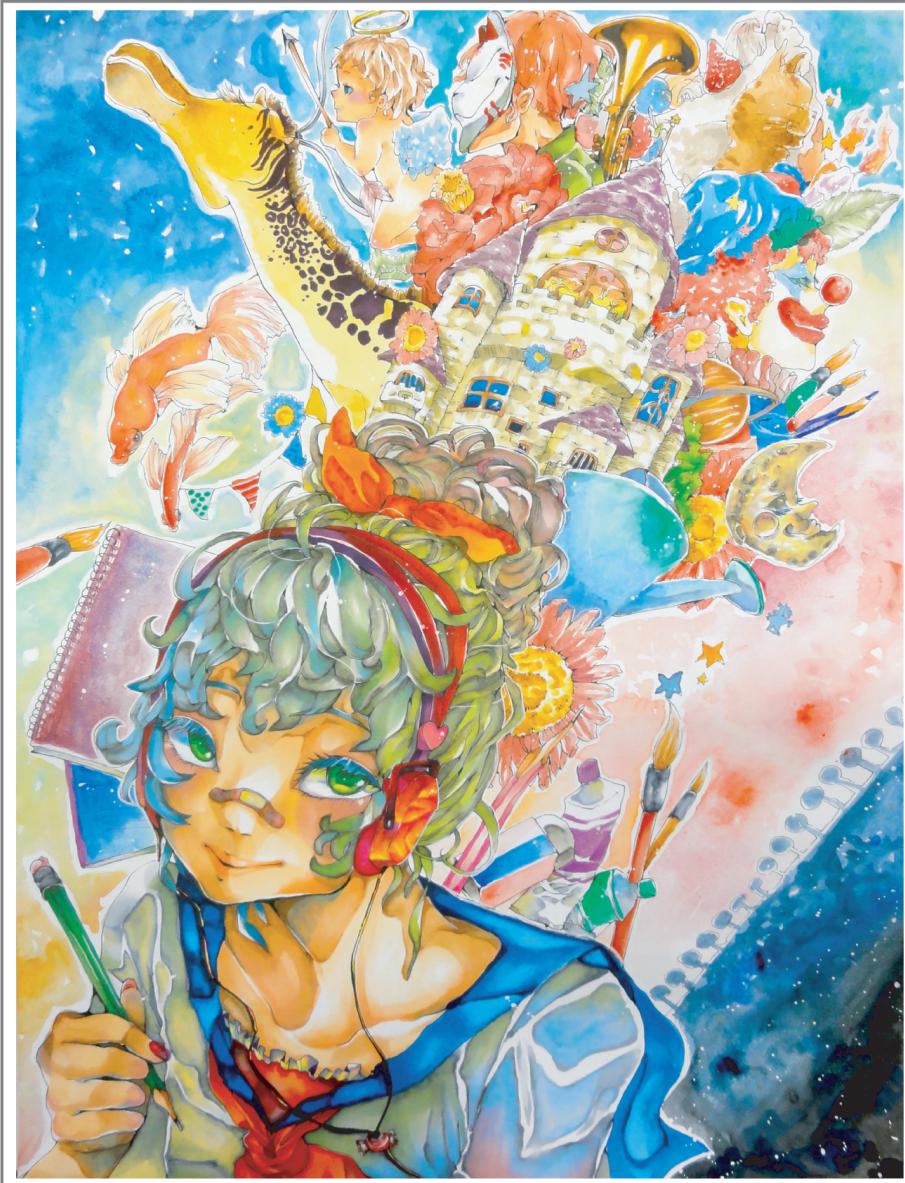


TEZUKAYAMA JUNIOR ART EXHIBITION

● ● ● 帝塚山ジュニアアート展 ● ● ●

2013年度 受賞作品



「描く」 神野 智佳子
貝塚市立第五中学校

神野さんの作品は頭の中に思い描く豊かな創造世界を卓越した描写力で力強く描ききった素晴らしい作品です。透明感のある色彩、奥行きのある構図、わくわくが伝わってくるような人物の表情、その全てが印象的でした。

音楽を聴きながら鉛筆を持った少女は神野さん自身を表しているのでしょうか。好奇心に満ちたその視線からは頭の中であれこれと思いを巡らせ、そのときを心から楽しんでいる様子が伝わってきます。様々な記憶や経験から生まれゆく想像世界は、一枚の紙の上から果てしなく広がり、背景には宇宙までもが描かれています。

この作品の「描く」という題名は「思い描く」という言葉を連想させます。頭の中で何かを想像するということは普遍的な思考かもしれません、そこから豊かに世界を膨らませる、思い描きだすということは、人間だからこそ出来る喜びに満ちた創造活動ではないでしょうか。そしてそれは、新しいモノやコトを作り出していく美術の世界においても非常に大切な思考と言えます。

創造の喜びに満ちた世界を卓越した表現力で描き切った、グランプリにふさわしく、とても素晴らしい作品です。

大賞 「雨の日の水族館」 平田 すみれ
堺市立長尾中学校

日々の中で時折訪れる「雨の日」。心の中にそっとその雨を貯めながら、様々な思いを巡らせているのでしょうか。

こちらに背中を向け、ひつそりと涙を流す少女。バランスを保って座っている様子や画面左下に広げられた本や植物のかけら、それぞれが画面上で複雑に絡み合い、一度見入ってしまうとなかなか視線をそらすことが出来ない、静かで、それでいて力強さを持った他に類を見ない作品です。同時にこの力強さは、画面にモチーフを沢山描き込むことだけが絵画表現の良さではないことを改めて私たちに感じさせてくれました。

この作品は平田さんが今の年齢だからこそ描くことが出来る作品でもあり、全体からみずみずしい感性が光っています。少女の繊細な心情を、今の平田さんにしか描くことが出来ない方法で表現した、とても印象的な1枚です。

